

はづしょう 羽津小だより

令和3年10月15日発行
四日市市立羽津小学校
第16号

10月14日で「三重県リバウンド阻止重点期間」が解除されました。解除後の教育活動については、「今後も、感染拡大の状況に関わらず、マスクの着用、手洗い、換気、身体的距離を確保するといった感染症対策を徹底する」という四日市市教育委員会の基本的な考え方を受け、引き続き感染症対策と健康管理を行いながら取り組んでいきます。2学期の行事については、「羽津小だより第15号」をご欄ください。現時点での変更はありません。なお、運動会の参観者入場制限等については、現在検討しています。後日お知らせいたします。

遠足を実施しました

10月12日（火）に遠足を実施することができました。天気が危ぶまれ、どの天気予報を検索しても雨が降るという予報でした。前日から子どもたちは、「校長先生、明日遠足行けるかなー？」「明日は雨が70%なんやって・・・」など、何人かの子どもたちが遠足をとても楽しみにしていて、天気を心配していることをわたしに伝えてくれました。中には、「てるてるぼうず」を作っていた子どもいたのではないのでしょうか。

当日、雨には降られず、曇ってはいたものの、暑いぐらいの一日でした。そんな状況の中、1・6年生は「霞☆ゆめくじら公園」、2・5年生は「シドニー港公園」、3・4年生は「垂坂公園・羽津山緑地」へ出かけていきました。1年生と2年生にとっては、初めての遠足でした。以前の遠足のように公共交通機関を利用して遠方には行くことは難しい状況です。目的地は近場の行き慣れている場所だったかも知れません。そして、楽しみなお弁当やおやつは、2・5年生全員がポートビルを見ながら食べたり、3・4年生が日頃の座席と同じように広々と食べたりしたように、同じ方向を向きながら話をせずには食べなければいけません。しかし、今年度になり、初めてみんなで活動することができた学校行事でした。どの学年の子どもたちもいきいきと活動し、おもいっきり体を動かし、へとへとになるまで歩き、友だちや下学年の子を大切にしようとする姿が見られました。学校に着いたときに教室で1年生に「楽しかった？」とたずねたところ、「うん！楽しかった！」と元気よく答えてくれました。コロナ禍になって、以前のような活動は、なかなかできないかも知れません。しかし、子どもたちのいきいきとした姿、キラキラした瞳、眩しいくらい笑顔の大切にして精一杯の取り組みをしようとして、あらためて思わされた一日でした。お弁当の準備等、お忙しいにもかかわらず、ご協力いただきました。ありがとうございました。



たくさんの方々から学んでいきます

通常授業が開始され、9月中は開催できなかった外部講師による学習に取り組み始めました。講師の方からのお話はもちろん、その語り口調、ステキな生き方をされているのがにじみ出ている態度など、たくさんのことを理屈ではなく学ぶことができるチャンスととらえ、それぞれの学年に応じて取り組んでいきます。今後も「学校だより」でも随時紹介していきます。

1 インターネットによる人との関係について考える 6年生



1学期に、3年生が「メディアリテラシー」を育てるための学習に取り組んだことは「学校だより第10号」でお知らせしました。今回、6年生を対象として「インターネットによる人との関係について考える」というテーマで、SNSに関することを中心に、前回と同じ講師で、反差別・人権研究所みえの연구원である安田賢行さんをお招きし、学習に取り組みました。安田연구원からは、県内の小中学生のSNSの活用の様子や実態を基にしながら、6年生に問題提起をしていただきました。現在の社会状況では、「今後、スマホやSNSを使い始める子」「もうすでに使っている子」など、ほとんどの子どもたちがスマホやSNSにかかわることになることでしょう。スマホやSNSは「人と人がつながるための道具」だと考えた場合、これらを有効に活用して、人と人が、よりよくつながっていくための力を育てていかなければなりません。6年生だけでなく、どのご家庭においても、よりよく人とつながっていくための道具としてのスマホやSNSの使い方について、お話をさせていただければと思います。

2 性と生命の授業「ホンネで話そう！生と性～しあわせな大人になろう～」

今年度、四日市市では、市内全小中学校で「性・生命に関する学習」について、外部講師をお招きして取り組んでいます。本校は、伊賀市で助産師相談室「いのちのかがやき」で活躍されている林みち子助産師に来校していただき、5年生と6年生を対象として取り組みました。林助産師からは、聴いている子どもたちに向けて、「言葉のシャワー」をかけてもらいました。子どもたちの存在を認めるたくさんの言葉をかけていただきました。子どもたちの心には、林助産師のどんな言葉が届いたのか、一度、ご家庭でも話題にしてみてください。以下に、林助産師から届けられた言葉の一部を紹介します。これらの言葉を、心をこめて言える自分でありたいとあらためて思いました。



- ・あなたたちが産まれてきたのは奇跡なんだよ
- ・あなたの体と心は、この世でたった一つの宝物
- ・イヤなことはイヤと言おう イヤと言われたら相手を尊重しよう
- ・性（「心」が「生きる」と書いて「性」）教育は生き方教育 = 人生を楽しむ力だよ
- ・なかよしの「さしすせそ」・「さ」すがやね！ 「し」んじてるで！ 「ス」テキヤン
「セ」ンスいいヤン 「そ」のとおり！ 「そ」だね～
- ・生きていてだけで、百点満点！！